

富岡鉄斎生誕 180 年記念

# 鉄斎の書 —自在の筆あと—

2016年4月1日[金]—6月19日[日]

前期:4月1日[金]—5月8日[日] 後期:5月14日[土]—6月19日[日]

開館時間=午前10時—午後4時30分(入館は午後4時まで) 休館日=月曜日



33 白居易問鶴詩書



56 立身木図

本年、近代文人画の巨匠 富岡鉄斎 (1836 ~ 1924) の生誕 180 年を迎え、これを記念して第 2 弾の企画展「鉄斎の書 — 自在の筆あと —」を開催することとなった。

幕末から明治・大正と激動の時代を生き、数え年 89 歳の天寿を全うした鉄斎は画はいうまでもなく多くの書の作品を遺している。巷間の美術に縁のない人々は鉄斎を書家と思っていたといい、その書は現在も神社仏閣の門前に建てられた寺社名碑や記念碑 (No. 9, 17)、老舗の屋号の扁額として親しまれている。遺された書一筆あとは、画に付された賛はもとより、形状では掛幅、額、屏風、卷子、折帖、扇子、箱書、碑文、書簡、器玩などの他、筆録と称する雑録集、愛蔵書への書き込みと身のあらしめるものに及んでいる。書体は篆、隸、楷、行、草、仮名、神代文字、あるいは文字絵 (No. 22, 34) と広く、時にそれらが交じり独特の書となった。鉄斎はどのように学んでいったのであろうか。

江戸時代、京都の富裕な町人の間では御家流 (青蓮院流) の書を学ぶのが一般的であり、法衣商に生まれた鉄斎も幼少より学んでいたであろう。また若い鉄斎には女流歌人、蓮月焼で名高い大田垣蓮月 (1791 ~ 1875) の影響を受けたと思われる、細く鋭い線で書かれた「針金鉄斎」と呼ばれる書が見られる。鉄斎がともに国事に奔走し、生涯兄事した山中信天翁、板倉 (淡海) 槐堂や江馬天江等も書をよくした。漢学、儒学、国学、仏教などの学問を修めるかたわら、彼等との交友を通じて書も学んでいったと考えられる。しかし書においても画と同様、特定の師について学ぶことはなく、独学であった。青年時代の鉄斎は、中国最古の漢字字典『説文解字』の注釈書の最高峰である、清の段玉裁の高価な『説文解字註』の原刻版を手に入れていた。そして晩年にいたっても清の汪立名 (汪立名) の『鐘鼎字源』を手放すことはなかった。その座右にあったのは唐の顔真卿、清の金冬心、鄭板橋の書であり、篆書は石鼓文や清の鄧石如に学び、多くの法帖や碑帖を愛蔵していた。常にこれらを熟覧し、研究し、臨書したであろうことは想像に難くない。

また鉄斎が生涯のほとんどを過ごした京都の名刹に遺された名僧たちの墨蹟、古くから伝わる経巻、宸筆、手鑑などは、現在よりもはるかに自由に目にできたであろう。鉄斎にとって何物にも代えがたい書を学ぶ機会であったと考えられる。

学問を通じて先人たちの書を学び、「万卷の書を読み、万里の路を行く」ことを生涯実践した鉄斎は、深い教養と該博な知識を得、学者として生きることの矜持をくずすことはなかった。遺された書には自詠の和歌 (No. 23, 50) や詩 (No. 1, 3, 4, 46, 49 など)、万卷の書物から得た詩文 (No. 33, 39, 42, 55 など)、教訓や鑑戒の句 (No. 5, 12, 32, 48 など)、吉祥の句 (No. 15, 21, 35 など) が多い。我々が鉄斎の書を前にしたとき感じるものとは、いわゆる書巻の気—学問に徹することによって生まれる一種の香気ともいべきものを中国では書巻の気という—といわれるものではなからうか。今回初公開となる《衆妙之門書》(No. 45) もそうした作品の一つといえる。

鉄斎は若い頃から篆刻をよくし、「余は印癖あり」の言葉の通り作品に捺された用印は 500 顆を優に超える。自ら刻した印で一巻をなす《印癖巻》(No. 38) には、22 種が見られるが、今回はその中から 9 顆 (No. 59 ~ 67) を選んで展示し雅趣に富む印影、印姿を御覧いただく。

89 歳の鉄斎が語った「後世には、弘法大師か菅相丞と同格に扱われるだろう」、あるいは「弘法大師が居られ



たら、書道の話がよう合うだろう」の言葉は、一朝一夕にはならない学問への自信ともとれるのではなからうか。何度も書風を変えながら晩年の書風にいたった鉄斎の自在な筆あとから、「書は人なり」、「金石の気」はもとより、「書巻の気」を感じ、おおらかで自由な境地を楽しんでいただければ幸いである。 (奥田素子)

## 《出品目錄》

番号	名 称	制 作 年		年齡	寸 法	材質・彩色	員数
1	宗廟之詩書	明治2	1869	34	133.9×29.6	紙本墨書	1幅
2	墨竹図・同詩書	明治2	1869	34	各 134.0×59.0	紙本墨画・墨書	対幅
3	写懷詩書			30代	137.5×29.2	紙本墨書	1幅
4	西遊旧詩書			30代	120.0×28.0	紙本墨書	1幅
5	多少箴書			30代	67.0×30.0	紙本墨書	1幅
6	虚白書			30代	28.1×70.3	紙本墨書	1面
7	骨董說書・諸葛侯戒子書			30代	28.2×418.0 28.2×383.7	紙本墨書	2帖
8	小艇浮江詩書・蕉陰煮茶図			30代	各 102.5×25.6	紙本墨書・淡彩	対幅
9	諸靈招魂碑	明治12	1879	44	301.4×62.4	紙本墨拓	1幅
10	和氣清麻呂公詩二行書			40代	134.2×32.4	紙本墨書	1幅
11	菅公水中月詩書			50代	133.4×43.8	紙本墨書	1幅
12	不如学書			50代	33.8×106.5	紙本墨書	1面
13	習字帖			50代	29.0×760.0	紙本墨書	1帖
14	仏說摩訶酒仏妙樂經	明治31	1898	63	32.0×260.8	紙本墨書	1卷
15	寿山福海書	明治32	1899	64	41.5×138.0	紙本墨書	1面
16	落款手本	明治34	1901	66	29.7×1575.0	紙本墨書	1帖
17	靈光殿菅公千年祭記念碑	明治35	1902	67	326.0×90.5	紙本墨拓	1幅
18	陶然書	明治36	1903	68	33.2×96.0	紙本墨書	1面
19	葉神少彦名命図・五言聯			60代	108.6×28.5 (聯)各126.2×16.8	紙本淡彩 紙本墨書	3幅対
20	鉄老斎印景	明治38	1905	70	各 177.3×30.9	紙本鈐印・墨書	対幅
21	長生安樂書	明治43	1910	75	45.0×198.0	紙本墨書	1面
22	慈悲菩薩像	明治43	1910	75	133.0×32.6	紙本墨画	1幅
23	袞詠歌	大正1	1912	77	37.4×41.0	紙本墨書	1幅
24	投心遵朝命書	大正2	1913	78	34.4×134.3	絹本墨書	1面
25	火用慎書			70代	113.2×25.7	紙本墨書・墨画	1幅
26	五福壽為先書			70代	40.6×153.7	紙本墨書	1面
27	松蘿窟書			70代	52.0×135.6	絹本墨書	1面
28	澄心得妙觀書			70代	46.0×179.4	絹本墨書	1面
29	画禅庵木額			70代	23.9×72.5	木	1面
30	萬歳書	大正4	1915	80	39.7×89.2	紙本墨書	1幅
31	萬歳二大字書	大正4	1915	80	199.5×89.2	紙本墨書	1幅
32	慎忍書	大正5	1916	81	41.5×131.5	絹本墨書	1面
33	白居易問鶴詩書	大正6	1917	82	135.5×53.0	紙本墨書	1幅
34	日月三星無量寿仏図	大正6	1917	82	132.4×32.2	紙本淡彩	1幅
35	南山祝寿長書	大正7	1918	83	136.2×41.3	絹本墨書	1幅
36	百事樂嘉辰書	大正7	1918	83	48.7×193.0	絹本墨書	1面
37	古仏龕図・七言聯	大正7	1918	83	133.0×45.5 (聯)各128.3×17.9	紙本着色 紙本墨書	3幅対
38	印癖卷	大正8	1919	84	31.1×132.4	紙本鈐印・墨書	1卷
39	四君子図裏面	大正8	1919	84	155.8×194.0	桐材着色	4曲1隻
40	今寿老人肖照	大正9	1920	85	100.8×50.6	紙本墨書	1幅
41	癡筆塚書	大正9	1920	85	78.2×42.5	紙本墨書	1幅
42	丈夫心事二行書	大正9	1920	85	130.5×32.0	紙本墨書	1幅
43	投義志所希書	大正9	1920	85	125.0×38.5	絹本墨書	1幅
44	福星開寿域書	大正9	1920	85	42.2×143.5	絹本墨書	1面
45	衆妙之門書	大正10	1921	86	32.0×81.6	紙本墨書	1面
46	賀立志成功詩書	大正10	1921	86	144.4×39.8	紙本墨書	1幅
47	紙田墨稼書	大正10	1921	86	47.0×175.0	紙本墨書	1面

番号	名 称	制 作 年		年 齢	寸 法	材質・技法	員数
48	須耐煩書	大正10	1921	86	36.9×113.8	紙本墨書	1面
49	試筆小詩書	大正12	1923	88	131.5×28.6	紙本墨書	1幅
50	寢言書	大正12	1923	88	38.8×47.0	紙本墨書	1幅
51	松風蘿月書	大正12	1923	88	31.5×126.7	紙本墨書	1面
52	凌雲書	大正12	1923	88	32.5×66.6	紙本墨書	1面
53	福内鬼外図	大正12	1923	88	32.5×133.2	紙本墨画	1面
54	春光庵書	大正13	1924	89	31.8×108.0	紙本墨書	1面
55	前赤壁賦書	大正13	1924	89	各 32.7×264.4	紙本墨書	3帖
56	立身木図	大正13	1924	89	144.6×39.2	紙本淡彩	1幅

[書 簡]

番号	名 称	制 作 年		年 齢	寸法(全長)	材質・技法	員数
57	坂本光浄宛	大正13	1924	89	22.0×91.0	紙本墨書	1通
58	笠原墨華堂宛			80代	27.2×646.9	紙本墨書	18通のうち

[所用印]

番号	名 称	刻者など	制 作 年	寸法(縦×横×高)	材 質	員数
59	肖形魁星印	富岡鉄斎下絵	明治36年(1903)	9.6×6.0×3.2	桜	1顆
60	「鳥飛魚躍」印	富岡鉄斎刻	明治時代後期	11.1×6.6×8.9	桧	1顆
61	「豪生仏堂」印	富岡鉄斎刻	明治時代後期	9.9×5.8×7.6	木	1顆
62	「画禅龕」印	富岡鉄斎刻	明治時代後期	9.2×4.4×7.9	木	1顆
63	「依様」印	富岡鉄斎刻	大正4年(1915)	4.3×2.2×4.7	青田石	1顆
64	「天賜寿杯」印	富岡鉄斎刻	大正4年(1915)	6.9×6.9×3.8	木	1顆
65	「毫生仏堂主人」印	富岡鉄斎刻	明治時代後期	5.4×5.3×6.4	柏	1顆
66	「畫道人」印	富岡鉄斎刻	大正4年(1915)	2.8×2.8×7.0	黄蠟石	1顆
67	「今人古心」印	富岡鉄斎刻	大正12年(1923)	3.0×1.9×8.2	豆汁凍石	1顆

・出品作品は期間中下記の通り2回にかけて展示します。但し一部作品は重複することがあります。

前期 4月1日(金)～5月8日(日) 後期 5月14日(土)～6月19日(日)

・下記の日程で学芸員による展示説明会を行います。

4月16日、30日、5月28日、6月11日 各土曜日の午後1時30分より

・今回の展覧会にあたり下記の方々にご協力を賜りました。記して感謝申し上げます。

光明寺(No.45)

所用印(No.59～67)は鉄斎美術館寄託品

・次回展覧会 富岡鉄斎生誕180年記念「鉄斎一われ、丙申に生まるー」

会期 2016年9月6日(火)～11月27日(日)

清荒神清澄寺 鉄 齋 美 術 館 〒665-0837 宝塚市米谷字清シー番地  
TEL (0797) 84-9600  
FAX (0797) 84-6699  
<http://www.kiyoshikojin.or.jp>